

云、有人說我婦人尤甚、予按終風詩寤言不寐、願言則嚏、鄭氏箋云、我其憂悼而不能寐、女思我心如是、我則嚏也、今俗人嚏云、人道我、此古之遺語也、乃知此風自古以來有之云々、

〔貞丈雜記祝儀〕一誕生の小兒鼻ひる數を結糸の事、治承御産記に云、安徳天皇御鼻員ガス以練糸結之、如恒云々、是將軍家之はなしねの緒の事也、

〔徒然草上〕或人清水へまわりけるに、老たる尼の行つれたりけるが、道すがらくさめくといひもて行ければ、尼御前何事をかくはの給ふぞと問けれども、いらへもせず、猶いひやまざりけるを、度々とはれてうち腹だちてや、はなひたる時、かくまじなはねば、死ぬるなりと申せば、やしなひ君の比叡山に兒にておはします、が、たゞ今もやはなひ給はんと思へば、かく申ぞかしといひけり、有がたきこゝろざしなりけんかし、

〔吾妻鏡三十五〕寛元二年正月廿四日乙丑、甚雨暴風、令參伊豆山給、降雨之間、供奉人皆舐鼻、彼山衆徒等、終夜延年興、

〔倭名類聚抄三〕口野王按口苦后反所以言食也、

〔箋注倭名類聚抄二〕口今本玉篇作苦苟切字異音同、按苦后與廣韻合、今本玉篇引說文云、人所以

言食也、釋名、口空也、

〔類聚名義抄二〕口苦厚反クチ

〔伊呂波字類抄久〕口クチ

〔書言字考節用集五〕口ク一名玉池、活法、

〔燕石雜志一〕物の名

口は飲食をおさむる路ミチなれば、くひみちの略にて食路歟、

〔和漢三才圖會十二〕口音口和名久知吻音粉和名久知岐良 品 嗚僻和名久知由賀無

口